

日本人における transporter associated with antigen processing 遺伝子多型と大腸がん感受性との関連性の検討

学位名	博士(医学)
学位授与機関	宮崎大学
学位授与番号	17601甲第8号
URL	http://hdl.handle.net/10458/5463

学位論文審査結果の要旨

博士課程 ①・乙	第 8 号	氏 名	山内武紀
審 査 委 員		主 査 氏 名	片岡寛幸
		副 査 氏 名	下田 和成
		副 査 氏 名	山口 良二
[論文題名]			
The genotype of the transporter associated with antigen processing gene affects susceptibility to colorectal cancer in Japanese			
[要 旨]			
<p>大腸癌の要因としてこれまで環境要因についてはある程度明らかになってきたが、一部の遺伝性大腸癌を除き患者側の遺伝要因については不明な点が多い。本研究では MHC class I 分子である transporter associated with antigen processing 1 (TAP1) 遺伝子について、その一塩基多型 (rs735883; C/C: 野生型、C/T: ヘテロ型、T/T: 変異型) と大腸癌発症との関連を 143 名の大腸癌患者と 243 名の非大腸癌患者をもちいて検討した。</p> <p>その結果、年齢、性別、喫煙状況における層化の有無にかかわらず、ヘテロ型およびヘテロ型+変異型の調整オッズ比は有意に大きく、TAP1 遺伝子における一塩基多型 rs735883 は大腸癌発症と関連し、変異アレルである T アレルはリスク因子であることが示された。</p> <p>以上の結果は、大腸癌発症危険群の予測に関する新規知見であり、今後の医療に資すると思われ、学位論文に値する成果と判断した。</p>			